

会員企業向け見学会・講演会開催

～音羽電機工業(株) 雷テクノロジーセンターの見学～

去る9月1日(水)、当支部会員向けサービス事業の一環として、当支部役員企業である日本唯一の雷総合メーカーであり、2008年に新たに設立された雷対策技術の殿堂ともいえる音羽電機工業株式会社雷テクノロジーセンター(兵庫県尼崎市)の見学会を開催しました。

このような見学会は平成18年度に開催された後、3年間開催されていませんでしたが、今年度は会員向けサービスの一環として復活し、大阪府内からも時間がかからず気軽に参加しやすい見学先を選定し、参加料を無料としました。また、今回は見学の後に1時間程度の講演会を設けるなど3年前から内容をリニューアルして開催、ほぼ定員に近い32名の参加者を集めました。

当日は当支部副支部長でもある吉田弘孝音羽電機工業株式会社名誉相談役よりご挨拶があり、続いて吉田厚広報室長より音羽電機工業の企業案内がビデオ上映と共に行われた後、参加者は2班に分かれて音羽電機工業営業部の方々の引率のもと、見学会を開始しました。

筆者が参加したB班は、まず高電圧試験室に移動し、直撃雷と誘導雷の説明を受けた後、800キロボルトの電圧発生器による雷の模擬実験を見学し、音羽電機工業製のSP避雷器を取り付けた場合と取り付けない場合の効果の違いを確認しました。続いて音と光で検査できる検電器の技術やLEDライトを内蔵した作業用ヘルメットに使われている技術の説明を関連会社である長谷川電機工業(株)の技術者の方に説明していただきました。

次に研究用2階建てモデル住宅において、誘導雷発生実験を見学しました。分電盤にSP避雷器を取り付けた場合、取り付けない場合の1/10の電圧に抑えることができるそうです。さらに直撃雷サージ試験室では、自社設計で世界でも有数の大きさを誇る220キロアンペアの直撃雷サージ発生器による直撃雷サージ実験(非常に大きな音!)を見学した後、最後に雷ミュージアムの見学をもって見学会は終了しました。

後半は、記念講演会として藤本昇特許事務所所長である藤本昇弁理士を講師に迎え、「中堅・中小企業と全社的な知財戦略のあり方(企業の知財リスクと中国など新興国対策)」というテーマで講演が行われました。1時間程度の短い時間でしたが、発明・特許に対する知識と意識不足や知的財産と企業の危機管理対策などについて、おにぎり包装事件の事例を挙げながら、巧みな語り口による講義であり、大変好評であった反面、時間が少なすぎるという意見もいただきました。

今回の見学会に関しては、無料ということで法人会員及び個人会員共に気軽に参加できるということもあり、良いイベントであったという声をいただき、こうした会員向けイベントを今後も実施してほしいという要望をいただきました。来年度も継続して実施していく予定です。